

課題16 ラプラスの悪魔からの哲学的挑戦

私たちの身のまわりのものごとには、かならずそれに先立つ原因が存在します。そして、1つの原因にはさらにそれに先立つ原因があり、原因と結果の連鎖は世界のはじまりの時にまでたどっていくことが可能です。

さて、ここで理科室の実験のことを思い浮かべてみましょう。あることがらの原因を知っているなら、私たちはその結果を確実に予測できるはずです。なぜなら、原因と結果は常にワンセットで、ある原因が満たされればかならず決まった結果が生じるというのが自然界の法則なはずなのですから。じっさい、銅を炎に近づけると炎が青緑に変わるという因果関係は「決まっていること」であって、違う色の炎がみられることはありませんし、もし違う色の炎が見られたとしたなら、そのような結果をもたらした別の原因があるはずです。

18世紀から19世紀に活躍したフランスの数学学者ピエール＝シモン・ラプラスは、著書の中で次のような興味深い仮説を唱えました。仮に、一匹の悪魔がいるとします。この悪魔は、すべての「物体」が次の瞬間にどのようにふるまうのか、その原因を知っており、また原因から結果を予測するだけの能力があります。とすると、この悪魔は、未来に何が起きるかを100%の確率で予測することができる事になるでしょう。ラプラスの悪魔は、「物体の」未来のすべてを知っています。

ところで、私たちの行動の1つ1つにも、かならずなにかしらの原因があります。私がいまここでこうして1つの文章を読んでいるのも、なにか理由があってのことでしょう。それはたとえば、課題にチャレンジしてみようという心の動き、つまり私たちの意志にもとづくものなのかもしれません。しかしその一方で、別の原因を考えることもできるでしょう。私がいまここで課題にチャレンジしてみようと「思った」というのは錯覚で、何か別の原因、たとえば脳の中の化学物質の動きによって、すでに決まっていたことなのかもしれませんし、その脳内の化学反応もさらに別の物理的な原因によって、あらかじめそうなることが決まっていたのかもしれません。

では、私たちの行動もラプラスの悪魔にはすべてお見通しなのでしょうか？

それとも私たちの心は物理法則とはことなる原理で動いているのでしょうか？

- (1) 私たちの行動は、意志にもとづく自由な判断の結果なのでしょうか、それとも原因と結果の連鎖にしたがって、あらかじめすでに決定されているのでしょうか。自分の考えと、なぜそのように考えるのか、理由をノートに書きだしてみましょう。